

## 子宮頸がんワクチン・ヒブワクチン

# 接種費用を助成



市では、4月から子宮頸がんワクチンとヒブワクチンの接種費用の一部を助成しています。助成の対象になる年齢や接種スケジュールをよく確認してください。(いずれも任意の予防接種です)

## 接種することで 予防できる 子宮頸がんワクチン

子宮頸がんの原因は、ほとんどがHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルスの感染によるもので、女性の約80%が一生涯に一度は感染するといわれています。感染は一時的で、ほとんどの場合は自然消失しますが、免疫力の低下などにより、感染が長期化すると子宮頸がんに進む可能性があります。

子宮頸がんワクチンは、国内では昨年10月に使用が認められ、HPVの中でも特に子宮頸がんの原因となりやすい16型と18型の感染を防ぐワクチンです。10代前半でのワクチン接種が予防に効果的とされ、3回の接種で免疫が20年以上続きます。ワクチンは任意で、1回の接種が高額なため、市では1回当たり9,000円を上限に費用の2分の1を助成します。

ワクチンは、すでに感染しているHPVを排除したり、がんを治したりする効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。

**接種回数**＝3回(初回接種後1カ月空けて2回目、初回接種後6カ月空けて3回目を接種)

**対象**＝小学5年生～中学3年生の女子

**助成方法**＝申請による償還払い(4月1日接種分から助成の対象。接種した日から2年以内に手続きをしてください)

**助成金額**＝1回につき接種料金の2分の1(上限9,000円。生活保護を受けている人は全額)

**申請場所**＝健康増進課(保健福祉館内)

**申請に必要なもの**＝予防接種費助成金支給申請書(健康増進課にあります)、領収書、「接種済」を記載された母子健康手帳または接種済証、振込口座の分かるもの、印鑑、生活保護を受けている人は生活保護受給証明書

## 重症感染症から 子どもを守る ヒブワクチン

ヒブとはb型インフルエンザ菌という細菌です。5歳未満の乳幼児の鼻やのどの粘膜で検出されることがあり、細菌が血液や肺に侵入すると、髄膜炎、敗血症、肺炎、骨髄炎などを引き起こします。国内では年間600人が発症し、数%が死亡。約20%に後遺症が残るとされています。

ヒブワクチンは、これらの感染症を予防するワクチンです。ワクチン接種のスケジュールと回数は接種開始年齢により異なります。

ワクチンは任意接種で、費用は全額自己負担となるため、市では1回当たり4,000円を上限に接種費用の2分の1を助成します。

### 接種回数

○接種開始年齢が2カ月～6カ月…初回3回(4～8週間隔)  
＋追加1回(約1年後)

○接種開始年齢が7カ月～11カ月…初回2回(4～8週間隔)  
＋追加1回(約1年後)

○接種開始年齢が1歳～4歳…接種回数1回

**対象**＝生後2カ月～4歳

**助成方法**＝申請による償還払い(4月1日接種分から助成の対象。接種した日から2年以内に手続きをしてください)

**助成金額**＝1回につき接種料金の2分の1(上限4,000円。生活保護を受けている人は全額)

**申請場所**＝健康増進課(保健福祉館内)

**申請に必要なもの**＝予防接種費助成金支給申請書(健康増進課にあります)、領収書(なるべく初回分はまとめて)、「接種済」を記載された母子健康手帳または接種済証、振込口座の分かるもの、印鑑、生活保護を受けている人は生活保護受給証明書

※くわしくは健康増進課(☎27-1111)へ。